

# CVP レポート サーバの概要とトラブルシューティング

## 目次

### [概要](#)

### [データベーステーブル](#)

### [要約および集約 表](#)

### [CVP 8.x および 9.0 レポート データベース間の違い](#)

### [レポート サーバー過負荷](#)

### [トラブルシューティング](#)

### [失敗およびリストア-部分的なレポート サーバー](#)

### [レポート サーバー失敗](#)

### [データベース接続失敗](#)

### [未完成呼び出し](#)

### [復旧モード](#)

### [トレース レベルおよびログファイル](#)

### [集約機能デバッグおよびログ](#)

### [データベース領域問題](#)

## 概要

この資料は Cisco Unified Customer Voice Portal ( CVP ) レポート サーバーの外観が示され、トラブルシューティング の 手順を提供したものです。

- レポート サービスは Cisco Unified IP Interactive Voice Response ( IVR ) サービス、Session Initiation Protocol ( SIP ) サービス ( もし使用するなら )、および Cisco Unified CVP 音声 XML ( VXML ) サーバからレポート データを受け取ります。サービスはコール センターの環境の史的記事として動作する Informix レポート データベースにそしてデータをトランスフォームし、書き込みます。
- レポート サービスはそしてそれらのメッセージを解析し、適当な構造化照会言語 ( SQL ) 文のバッチに変換し、SQL データベースに Java DataBase Connectivity ( JDBC ) API によって実行します。

## データベーステーブル

CVP 表はとして分類されます:

- コール 表
- VXML 表
- 要約/集約 表

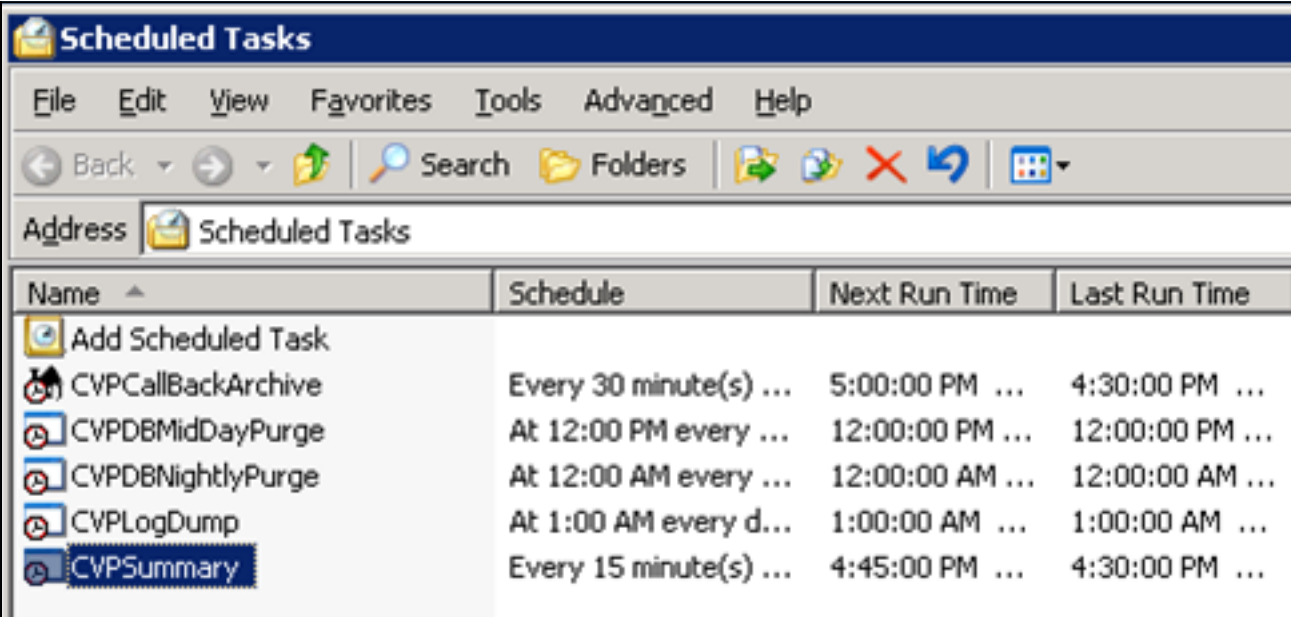
- ルックアップおよび参照テーブル
- 礼儀コールバック表

コール表の呼び出し開始するは CallGUID カラムによって VXMLSession 表にリンクされ。

注: 統一された CVP DateTime は UTC 時間として記録されます; 例外は現地時間として記録される dbdatetime です。 Localtimezoneoffset は現地時間を得るために UTC からの分数オフセットが含まれているコール表のカラムです。これは間隔として使用することができません。

## 要約および集約表

新しい要約テーブルにコールおよび VXMLElement 表からのデータを集約する統一された CVP レポート サーバーはサマリ プロセスが含まれています。



Name	Schedule	Next Run Time	Last Run Time
Add Scheduled Task			
CVPCallBackArchive	Every 30 minute(s) ...	5:00:00 PM ...	4:30:00 PM ...
CVPDBMidDayPurge	At 12:00 PM every ...	12:00:00 PM ...	12:00:00 PM ...
CVPDBNightlyPurge	At 12:00 AM every ...	12:00:00 AM ...	12:00:00 AM ...
CVPLogDump	At 1:00 AM every d...	1:00:00 AM ...	1:00:00 AM ...
CVPSummary	Every 15 minute(s) ...	4:45:00 PM ...	4:30:00 PM ...

レポート要約テーブルは次のとおりです:

- ApplicationSummary\_15
- ApplicationSummary\_Daily
- ApplicationSummary\_Weekly
- ApplicationSummary\_Monthly
- Call\_15
- Call\_Daily
- Call\_weekly

表はこのスケジュールに基づいていました作成されます:

- 毎日表は 1 日 15 の分表の後ろの読み込まれます。
- 週間表は毎日表からそれらが疑わしい週の間完全に読み込まれたら、読み込まれます。
- 月例表は週間表からそれらが疑わしい月の間完全に読み込まれたら、読み込まれます。

参照して下さい Cisco バグ ID [CSCue65248](#) を、「CVP レポート要約テーブル読み込まれません」。CVP レポート サーバーでは、要約テーブルは読み込まれません。問題は CVP 9.0 でもたらされた月例要約のためのスクリプトによって引き起こされています。

## CVP 8.x および 9.0 レポート データベース間の違い

データベースを報告する統一された CVP 9.0(1) は Windows 2008 R2 サーバでだけサポートされます。データベースを報告する統一された CVP 8.x が Windows 2003 によってサポートされるので、直接アップデートはデータベースを報告する統一された CVP 9.0(1) へありません。

移行手順に関しては、インストレーションガイドを参照して下さい。次の注意してください。

- レポート サーバー コンポーネントはマシンが既にドメインの一部である場合インストールすることができません。
- レポート サーバー コンポーネントはサーバでインストールすることができませんドメインの一部である。コンポーネントのインストールはローカル セキュリティ ポリシーがサーバがドメインの一部である場合可能性のあるではないグループ ポリシー コンソールの同じセキュリティポリシーより高い優先順位を優先することを必要とします。ただし、インストールの後で、サーバはドメインに戻ってこれがローカル ポリシーをサーバで動作するように要求しないので追加することができます。

ポスト インストール タスクの違いは下記のものを含んでいます:

- 4.x、7.x レポート データベース- Informix ユーザとしてログイン、およびこれらのバッチファイル実行される: ReportingRunAsInformix.bat.ReportingRunAsCVP\_DbAdmin.bat.
- 8.x レポート データベース- Informix ユーザとしてログイン、およびこのバッチファイル実行される: CVP\_Database\_Config.bat.
- 9.x レポート データベース-ポスト インストールプロセスの一部としてバッチファイルが必要となりません。

ユーザの主な違いは、9.x と、Informix これ以上のユーザがないことです。その代り、cvp\_dbadmin ユーザはデータベースのオーナーです。

## レポート サーバー過負荷

サーバを報告する Cisco MCS-7845 は 420 のメッセージ 毎秒を処理できます。

各 VoiceXML アプリケーションのためのレポート メッセージによって生成される毎秒の数を判別するためにこの同等化を使用して下さい:

$$A\# = \%CPS * CPS * MSG$$

ここで、

- %CPS = この VoiceXML アプリケーションを使用する呼び出しのパーセント
- CPS = 呼び出し毎秒の数
- MSG = このアプリケーションが生成するレポート メッセージの数

各アプリケーションによって生成されるメッセージを追加するためにこの同等化を使用して下さい:

$$A ( total ) = A1+ A2+?..+An$$

A ( total ) が VoiceXML アプリケーションによってレポート メッセージによって生成される毎秒

の総数行うところ。

要素またはアクティビティごとのレポート メッセージの数は [Cisco Unified Customer Voice Portal \( CVP \) ソリューション リファレンス ネットワーク デザイン \( SRND \) リリース 9.0\(1\)](#) の表 17 にあります。

わかりやすくするために、1秒の間 vxmlsession 表に書き込まれるメッセージの平均数を計算するためにこのクエリを使用できます:

```
select count(*)/86400 from vxmlsession where dbdatetime between  
'2012-12-12 00:00:00' and '2012-12-13 00:00:00'
```

この 14 の表に対してこのクエリを実行して下さい:

1. CallEvent
2. CallICMInfo
3. OutgoingECCVariable ( 関連する CCB )
4. VXMLCustomContent
5. VXMLElement
6. VXMLElementDetail
7. VXMLElementFlag
8. VXMLError
9. VXMLHotEvent
10. VXMLHotLink
11. VXMLSession
12. VXMLSessionVariable
13. VXMLVoiceInteractDetail

レポート サーバーによって受け取ったメッセージ 毎秒の平均数を得るために結果を追加して下さい。

## トラブルシューティング

レポート サーバーが過剰になる場合、レポート ログはこれらのアラートが含まれています:

```
CVP_8_0_RPT-1-REPORTING_DB_ALERT_RAISE ALERT!!!! The total JDBC messages queue  
size has exceeded the critical limit 300000 .... All the JDBC messages will  
be dropped. [id:4014]
```

```
CVP_8_0_RPT-1-REPORTING_DB_ALERT_RAISE ALERT!!!! The total JDBC messages queue  
size has exceeded the max limit 250000 .... Some of the JDBC messages may be  
dropped. [id:4014]
```

### 失敗およびリストア-部分的なレポート サーバー

レポート サーバーが PARTIAL\_SERVICE 状態に行く複数のシナリオがあります。ただし、PARTIAL\_SERVICE 状態は問題があることを必ずしも意味します。

### レポート サーバー失敗

レポート サーバーが壊れた場合、レポート サーバーに向かうメッセージはコール サーバによっ

て、メモリで、200,000 までのメッセージ バッファリングされます。後制限が達すること、すべての新しいメッセージ 詳細情報は廃棄されます。

注: UCS プラットフォームに関しては、仮想 な プラットフォームの詳細およびコール ロードを最大化するためにレポート サーバーで設定 する レシーブ バッファの数を修正して下さい。OS をインストールした後この設定が修正されなければ、メッセージは CallServer でバックアップし、メッセージ 待ち 行列は充満します。それから Calls Per Second (CPS) 比率の急降を参照します。

4096 にレポート サーバー TCP 設定のレシーブ バッファの数を設定 するためにこれらのステップを踏んで下さい ( 最大値 ):

1. レポート サーバーで、> ネットワーク接続 『Control Panel』 をクリックして下さい。
2. ネットワーク接続を右クリックして下さい。
3. [Advanced] タブをクリックします。
4. Property タブの下で、レシーブ バッファの 『Number』 を選択して下さい。
5. 値 テキストボックスでは、4096 を入力して下さい。
6. レポート サーバーを再起動して下さい。

[統一された CVP のための仮想化を参照して下さい](#); その他の情報のための [UCS ネットワークコンフィギュレーション](#)。

## データベース接続失敗

データベース接続が失敗した場合、レポート サーバーは簡易ネットワーク管理プロトコル (SNMP) アラートを送信し、ユーザが指定する制限まで耐久性があるファイル (%CVP\_HOME%\tmp\CVPReporting.tmp) にメッセージを保存し始めます。この時間の間に、制限の Service.When 75% のレポート サーバー滞在はログファイルに、警告書かれています達します。制限の 100% が達するとき、SNMP アラートは送信され、レポート サーバーは PARTIAL\_SERVICE 状態に入ります。どの新しいメッセージでも廃棄されるかもしれません。

データベース接続が戻って来るとき、レポート サーバーは復旧モードに ( その状態にまだあっていなければ ) 入り、PARTIAL\_SERVICE 状態に状態を変更します。それはそれから %CVP\_HOME%\tmp\CVPReporting.tmp ファイルからのメッセージを読み込み、データベースに託し始めます。ファイルのサイズによっては、データベースにデータすべてを託すために時間かかるかもしれません。リカバリの間に入る新しいメッセージはメモリでバッファリングされます。

しかしサーバのモードか状態に関係なくバッファリング レポート サーバーができるメッセージ数への制限があります:

- バッファ内のメッセージの数が 100,000 に達するとき、SNMP アラートはユーザへの警告として送信されます。
- 200,000 のメッセージで、別の SNMP アラートは送信されます、すべての新しいメッセージのための詳細情報は廃棄され、コール、呼出しイベントおよびセッション情報のような基本データだけ保存されます。200,000 のメッセージで、レポート サーバーはまた PARTIAL\_SERVICE 状態に ( その状態にまだあっていなければ ) 状態を変更します。
- バッファ内のメッセージの総数が 300,000 に達するとき、別の SNMP アラートは送信され、すべての新しいメッセージはその時から廃棄されます。

・キューサイズは標準に戻っており、レポート サーバーの状態は稼働中に戻ることを示すメモリのメッセージ数が 50,000 を下回るとき、SNMP アラートは送信されます。  
始動で存在する耐久性があるファイルが PARTIAL\_SERVICE 状態にレポート サーバーとどまり、復旧モードに入れば。

## 未完成呼び出し

レポート サーバーはまた PARTIAL\_SERVICE 状態に未完成呼び出しを回復しているとき行くことができます。

このメッセージはレポート サーバー ログで見られます:

```
%CVP_8_0_RPT-1-REPORTING_STATE_CHANGE: REPORTING Subsystem state changed to RPT SS RPT1 changes its state to Partial Service cause Unfinished calls recovery started [id:4001]
```

ログはまたこれらの呼び出しのリカバリについての情報が含まれています。リカバリプロセスが長い時間をかけることができることを覚えていて下さい!

```
%CVP_8_0_RPT-1-REPORTING_STATE_CHANGE: REPORTING Subsystem state changed to RPT SS RPT1 changes its state to Partial Service cause Unfinished calls recovery started [id:4001]
```

未完成呼び出しが完了すれば、これらのメッセージは見られ、レポート サーバーは稼働中状態に戻ります:

```
%CVP_8_0_RPT-6-REPORTING_INFO: Recover CallRegistry finished [id:4000]
%CVP_8_0_RPT-6-REPORTING_INFO: initKeepAliver() -- processed unfinished calls [id:4000]
%CVP_8_0_RPT-1-REPORTING_STATE_CHANGE: REPORTING Subsystem state changed to RPT SS RPT1 changes its state to In Service cause Normal Operation [id:4001]
```

## 復旧モード

リカバリプロセスを避け、レポート サーバー稼働中を思い出させるために %CVP\_HOME%\tmp\CVPReporting.tmp ファイルを取除くことができます。このプロセスはリカバリプロセスをバイパスする方法を記述します:

1. CVP コール サーバサービスを停止して下さい。
2. %CVP\_HOME%\tmp へのナビゲート。
3. CVPReporting.tmp ファイルの名前を変更して下さい。
4. CVP コール サーバサービスを開始して下さい。

参照して下さい Cisco バグ ID [CSCtu43570](#) を、「CVPReporting.tmp なり、サイズ制限を越えて回復される時機を得ている」。新しいコール レポート データはファイルが完全に読み込むことができなかつたので失われました。「ディスクスペース」から結局状態を引き起こしたハードドライブはいっぱいになっていました。

この問題は統一された CVP 8.5(1)SR18 および 8.5(1)SR6 レポート データベースで解決されました。

## トレース レベルおよびログファイル

レポート サーバー ログのトレースレベルを設定するために <install\_dir>\Cisco\CVPを\  
CONF\reporting.properties ファイル編集して下さい。次に例を示します。

```
%CVP_8_0_RPT-6-REPORTING_INFO: Recover CallRegistry finished [id:4000]
%CVP_8_0_RPT-6-REPORTING_INFO: initKeepAliver() -- processed unfinished calls
[id:4000]
%CVP_8_0_RPT-1-REPORTING_STATE_CHANGE: REPORTING Subsystem state changed to RPT
SS RPT1 changes its state to In Service cause Normal Operation [id:4001]
```

## 集約機能デバッグおよびログ

要約 使用 ciscoadmin データベースの 2 つの表: agg\_schedule および agg\_statements。

集約が動作したかどうか <CVP\_HOME> \ログ\reporting.txt ファイルは示します。

このプロシージャは aggregator.bat ジョブのための追加トレースを有効にする方法を記述します  
:

1. 最低 15 分を待って下さい。
2. <CVP\_HOME> \bin\ aggregator.bat ファイルを編集して下さい。このデフォルトから .bat  
ファイルの値を変更して下さい:

```
%CVP_8_0_RPT-6-REPORTING_INFO: Recover CallRegistry finished [id:4000]
%CVP_8_0_RPT-6-REPORTING_INFO: initKeepAliver() -- processed unfinished calls
[id:4000]
%CVP_8_0_RPT-1-REPORTING_STATE_CHANGE: REPORTING Subsystem state changed to RPT
SS RPT1 changes its state to In Service cause Normal Operation [id:4001]次のようにします
。 echo call sp_sched_agg('D'); | dbaccess ciscoadmin
```

デバッグ ログは CVP\_HOME> \ログ\ Agg\_Debug.out ファイルに書かれます。

## データベース領域問題

注: この領域問題は異なる実装で見られました。この問題へのソリューションが Informix の  
深い専門知識を含むので、この問題に直面する場合 Cisco Technical Assistance Center  
( TAC ) に連絡して下さい。

このプロシージャはトラブルシューティング プロセスを説明します:

1. 統一された CVP 8.0(1) レポート データベースにアップグレードして下さい。
2. CVP\_Database\_Config.bat ファイルを実行し、問題を参照して下さい:

```

C:\Cisco\CUP\bin>CUP_Database_Config.bat
23:41:54 Wed Dec 19 2012dbaccess sysmaster c:/temp/cvpck.sql 2>NUL

Modifying Locale for Informix shortcut
C:\Cisco\CUP\bin\chg.exe C:\db\informix\cvp_db_wp17cvprpt1a.cmd /F:"CP1252" /R:"
UTF8" > NUL
C:\Cisco\CUP\bin\chg.exe C:\db\informix\cvp_d\wp17cvprpt1a.cmd /F:"8859-1" /R:"
UTF8" > NUL
C:\Cisco\CUP\bin\chg.exe C:\db\informix\cvp_db_wp17cvprpt1a.cmd /F:"codepage sel
ect=1252" /R:"codepage select=850" > NUL
dbaccess sysmaster c:/temp/cvpck.sql 2>NUL
dbaccess cvp_data C:\Cisco\CUP\informix_frag\upg_est.sql
dbaccess cvp_data c:/temp/cvpupg.sql 2>NUL
No such file or directory

```

3. c:\temp\cvpupg.sql ファイルを検討して下さい。コンテンツは次のとおりです:

```
echo call sp_sched_agg('D'); | dbaccess cisoadmin
```

4. データベースへの接続応答。 **upg\_estimate** 表をチェックするよう試みるときありません。

The screenshot shows the DBAccess application interface. At the top, there is a menu bar with options: SQL, New, Run, Modify, Use-editor, Output, Choose, Save, Info, Drop, Exit. Below the menu bar, there is a text area containing the SQL statement: `select * from cvp_data:upg_estimate`. At the bottom of the window, a status bar displays the following error messages: `206: The specified table <upg_estimate> is not in the database.` and `111: ISAM error: no record found.`

5. c:\Temp\CiscoUnifiedCVPDB.log ファイルをチェックし、これらのエラーを参照して下さい:

```

23:41:54 Wed Dec 19 2012 : dbaccess cvp_data
C:\Cisco\CVP\informix_frag\upg_est.sql
Database selected.
312: Cannot update system catalog (sysprocbody).
131: ISAM error: no free disk space
Error in line 26
Near character position 11

```

```

23:41:54 Wed Dec 19 2012 : dbaccess cvp_data c:/temp/cvpupg.sql 2>NUL
Database selected.
206: The specified table (upg_estimate) is not in the database.

```

6. upg\_est.sql をチェックして下さい。 upg\_estimate 表のコンテンツは次のとおりです:

```

23:41:54 Wed Dec 19 2012 : dbaccess cvp_data
C:\Cisco\CVP\informix_frag\upg_est.sql
Database selected.
312: Cannot update system catalog (sysprocbody).

```



```
131: ISAM error: no free disk space
Error in line 26
Near character position 11
```

```
23:41:54 Wed Dec 19 2012 : dbaccess cvp_data c:/temp/cvpupg.sql 2>NUL
Database selected.
```

**206: The specified table (upg\_estimate) is not in the database.**しかし、この表は作成されません。

## 7. DBAccess に接続し、このクエリを実行して下さい:

```
23:41:54 Wed Dec 19 2012 : dbaccess cvp_data
C:\Cisco\CVP\informix_frag\upg_est.sql
Database selected.
312: Cannot update system catalog (sysprocbody).
131: ISAM error: no free disk space
Error in line 26
Near character position 11
```

```
23:41:54 Wed Dec 19 2012 : dbaccess cvp_data c:/temp/cvpupg.sql 2>NUL
Database selected.
```

**206: The specified table (upg\_estimate) is not in the database.**クエリは 0 を戻します、従って表は作成する必要があります。

## 8. DBAccess で表を手動で作成することを試みて下さい:

```
23:41:54 Wed Dec 19 2012 : dbaccess cvp_data
C:\Cisco\CVP\informix_frag\upg_est.sql
Database selected.
312: Cannot update system catalog (sysprocbody).
131: ISAM error: no free disk space
Error in line 26
Near character position 11
```

```
23:41:54 Wed Dec 19 2012 : dbaccess cvp_data c:/temp/cvpupg.sql 2>NUL
Database selected.
```

**206: The specified table (upg\_estimate) is not in the database.**エラーメッセージを受け取ります:

```
23:41:54 Wed Dec 19 2012 : dbaccess cvp_data
C:\Cisco\CVP\informix_frag\upg_est.sql
Database selected.
312: Cannot update system catalog (sysprocbody).
131: ISAM error: no free disk space
Error in line 26
Near character position 11
```

```
23:41:54 Wed Dec 19 2012 : dbaccess cvp_data c:/temp/cvpupg.sql 2>NUL
Database selected.
```

**206: The specified table (upg\_estimate) is not in the database.**

## 9. onstat - d コマンドを実行し、最後の固まりに十分なスペースがないことを確認して下さい:

```

E:\IFMXDATA\cvp_db_wp17cvprpt1a>
E:\IFMXDATA\cvp_db_wp17cvprpt1a>onstat -d

IBM Informix Dynamic Server Version 10.00.IC10 -- On-Line -- Up 06:54:31 -- 1657024 Kbytes

Dbspaces
address number flags fchunk nchunks pgsize flags owner name
8010E7E8 1 0x40001 1 1 4096 N B informix rootdbs
8085B478 2 0x40001 2 1 4096 N B informix cvp_prim
8085B5F8 3 0x48001 3 1 4096 N SB informix sbspace
8085B758 4 0x42001 4 1 4096 N TB informix cvp_temp_dbSPACE
8085B8B8 5 0x40001 5 1 4096 N B informix cvp_llog_dbSPACE
8085BA18 6 0x40001 6 1 4096 N B informix cvp_plog_dbSPACE
8085BB78 7 0x40001 7 1 4096 N B informix cvp_data_dbSPACE
7 active, 2047 maximum

Chunks
address chunk/dbs offset size free bpages flags pathname
8010E948 1 1 0 12800 10659 PO-B E:\IFMXDATA\cvp_db_wp17cvprpt1a\rootdbs_dat.000
8029CB08 2 2 0 12800 12747 PO-B E:\IFMXDATA\cvp_db_wp17cvprpt1a\cvp_prim_dat.000
8029CC88 3 3 0 12800 11879 PO-SB E:\IFMXDATA\cvp_db_wp17cvprpt1a\sbspace_dat.000
Metadata 868 554 868
8029CE08 4 4 0 1048576 1048523 PO-B E:\ifmxdata\cvp_db_wp17cvprpt1a\cvp_temp_dat.000
8085BB18 5 5 0 1150976 50123 PO-B C:\IFMXDATA\CVP_LLOGS\cvp_llog_dat.000
8085B198 6 6 0 287744 4947 PO-B E:\ifmxdata\cvp_db_wp17cvprpt1a\cvp_plog_dat.000
8085B318 7 7 0 18350080 205 PO-B E:\ifmxdata\cvp_db_wp17cvprpt1a\cvp_data_dat.000
7 active, 32766 maximum

NOTE: The values in the "size" and "free" columns for DBspace chunks are
displayed in terms of "pgsize" of the DBspace to which they belong.

Expanded chunk capacity mode: always

```

10. 「Informix」ユーザとして CVP Informix ボックスへのログイン。

11. E:\ifmxdata\cvp\_db\_wp17cvprpt1a\ の下で new\_space と呼ばれる新しい空 ファイルを作成して下さい。コマンドプロンプトを開き、これらのコマンドを入力して下さい。コピーアンドペーストしないで下さい:

```

23:41:54 Wed Dec 19 2012 : dbaccess cvp_data
C:\Cisco\CVP\informix_frag\upg_est.sql
Database selected.
312: Cannot update system catalog (sysprocbody).
131: ISAM error: no free disk space
Error in line 26
Near character position 11

23:41:54 Wed Dec 19 2012 : dbaccess cvp_data c:/temp/cvpupg.sql 2>NULL
Database selected.

```

206: The specified table (upg\_estimate) is not in the database.注: -s は新しいチャンクのサイズを表示し、KB で与られます。100 MB に関しては、100 時\* 1024 = 102400 です。このコマンドは CVP Informixサーバに dbspace の 100 MB を追加します。

12. CVP\_Database\_Config.bat ファイルを再実行して下さい。それは今きちんとはたります

。

この例に DBAccess とデータベースに接続する方法を示されています:

```
DBAccess
SELECT DATABASE SERVER >>
Select a server with the Arrow Keys, or enter a name, then press Return.
----- Press CTRL-W for Help -----
cvp_db_cvp
```

```
DBAccess
USER NAME >> cvp_dbuser
Enter the login name you want to use for this connection.
----- Press CTRL-W for Help -----
cvp_db_cvp
```

```
DBAccess
SELECT DATABASE >>
Select a database with the Arrow Keys, or enter a name, then press Return.
----- @cvp_db_cvp ----- Press CTRL-W for Help -----
callback@cvp_db_cvp
ciscoadmin@cvp_db_cvp
cvp_data@cvp_db_cvp
sysmaster@cvp_db_cvp
sysuser@cvp_db_cvp
sysutils@cvp_db_cvp
```

```
DBAccess
DBACCESS: Query-language Connection Database Table Session Exit
Use SQL query language.
----- cvp_data@cvp_db_cvp ----- Press CTRL-W for Help -----
```

```
DBAccess
SQL: New Run Modify Use-editor Output Choose Save Info Drop Exit
Enter new SQL statements using SQL editor.
----- cvp_data@cvp_db_cvp ----- Press CTRL-W for Help -----
```

```
DBAccess
NEW: ESC = Done editing CTRL-A = Typeover/Insert CTRL-R = Redraw
CTRL-X = Delete character CTRL-D = Delete rest of line
----- cvp_data@cvp_db_cvp ----- Press CTRL-W for Help -----
select max(dbdatetine) from UXMLElement
```

```
DBAccess
SQL: New Run Modify Use-editor Output Choose Save Info Drop Exit
Run the current SQL statements.
----- cvp_data@cvp_db_cvp ----- Press CTRL-W for Help -----
<nax>
2012-12-04 12:53:30.000
```